

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071200572
法人名	株式会社 大慈会
事業所名	グループホーム さくらの家
所在地	福岡県福岡市西区福重1丁目5-13
自己評価作成日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成26年2月8日	評価結果確定日	平成26年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家の周りには四季折々の花を植え、季節を感じれるよう心がけています。また、春には敷地内にある10数本の桜が満開となり、心安らげる空間となっています。施設内での生活も業務的にならないよう、常に入居者の気持ちを汲み取り、本人のペースが保てるよう心がけ、お一人お一人の可能な限りの自立をめざし、全職員にて話し合いを重ね支援しています。また、ご家族の気持ちの理解や負担を軽減できるよう可能な限り話を聞かせていただき、良好な家族関係が継続できるような援助しながら、家族との信頼関係を築いていけるよう関わりを持たせていただいています。職員教育にも力をいれており、内部研修を充実させています。高齢者の体の仕組みから、個別の疾患についての理解など、入居者様が、より安心・安全に生活できるよう、全職員の知識・技術の向上に努めています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人としての体制の変更を契機として、地域との交流拡大や運営推進会議の充実に取り組み、地域の拠点として新たな働きかけを重ねているところである。開設して13年目を迎える今年度は、皆の想いを集約しながら新たな理念を作成し、一丸となってサービスの向上に取り組んでいる。昨年より継続している排泄ケアの充実に向けた取り組みは成果となって表れ、心身機能の活性化や経済的な負担軽減にもつながっている。また、現状を踏まえ、重度化や終末期のあり方について、指針の再構築に取り組む等、様々な視点から、個別の暮らしの継続に向けたアプローチを行っている。「さくらの木」をはじめ、敷地内では水仙やパンジー、チューリップ等、季節の花を見ることが出来、玄関も、地域ボランティアの協力を得て、季節感ある飾り付けがなされている。様々な関係者との連携を図り、事業所全体の活性化に向けた働きかけが、一つ一つ実を結ぶように取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	代表の想い・職員の想い・入居者の気持ちを内容に入れ、職員間での話し合いの元で作成し、利用者・家族・職員全てが想いを共有できるようかかっている	平成25年4月に理念を見直し、職員間で話し合いの「想い」を文章化し、新たな理念を作成している。話し合う機会を設けた事で、理念を身近に感じるようになり、また実践に向けた支援に結びつけるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域住民のボランティア活動の受け入れや、町内活動・学校行事への参加を行いながら、地域住人との交流を図っている。また、地域の清掃活動や行事にも参加し、事業所としての地域交流も図っている	地域のボランティアの方により、玄関の飾り付けが行われたり、自治会や中学生との交流、学習発表会などの行事への参加等、地域とのつながりを積極的に広げている。昨年のクリスマス会・忘年会には、地域の方の参加を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉関係の実習の受け入れや小学校や中学校の職場体験を受け入れ、福祉の仕事の理解や支援を呼びかけている。また、地域住民に施設行事に参加していただくことで理解につなげている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご家族・行政・自治会長・民生委員・地域住民・消防団の参加により、意見交換を行っている。内容報告の際には的確なアドバイスもいただいており、サービス向上にいかしている	かねてより懸案であった運営推進会議の定期開催が実現し、地域包括支援センター職員の出席も得ている。毎回、全家族への案内を行い、実際に複数の家族の参加を得ている。自治会長や民生委員、地域代表、消防団より出席を得る機会があり、情報共有や意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の施設便りを送ったり、毎月の運営推進会議に声かけを行い、参加していただいている。また、認知症サポーターにも登録を行い、活動の幅をひろげている。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員の出席を得ており、毎月、事業所便りを送付している。グループホーム協議会での活動を通じて、行政担当者との情報共有や意見交換を行う機会がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年、身体拘束に関する外部研修に参加し、内容報告をおこなっている。また身体拘束廃止委員会を設置し内部研修にて意識統一や現時点でのリスクについて話し合いを行い、事例検討を行いながら身体拘束についての知識を向上させている	外部研修への参加や、年間計画に沿った内部研修実施のほか、リスクマネジメントや排泄ケア、下肢筋力機能の維持等、多面的なアプローチを行うことで、身体拘束をしないケアに結び付けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な会議において理解を深めると共に、職員の言動や体調にも留意し、日々の声かけを行っている。また、些細なことでも疑問視するよう話し合いを持っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な会議において、制度の勉強を行い、知識の向上に努めている。また、入居者の状況を把握しながら、必要時には家族に提案を行い活用できるよう支援している	現在、権利擁護に関する制度を活用している方もおり、成年後見人の方へは、随時、状態の報告を行っている。定期的に研修を実施し、職員の理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に何度も家族・本人との面会を行い関係を築き、契約の説明を時間をかけ行い、十分な理解と納得を図っている。疑問点は質問いただき、説明を行い、納得していただいた上で署名・捺印をいただいている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時や運営推進会議にて様々な意見を頂いている。遠方のご家族にはメールや手紙でのやり取りを行い意見交換を行っている。意見や要望は職員会議にて話し合いを行い、日々のケアの向上に努めている	運営推進会議の開催を全家族に案内している。忌憚のない意見交換が行われており、夜間帯の避難訓練や緊急連絡体制についての意見をj得て、夜間想定避難訓練を実施したり、家族の緊急連絡網を作成中であり、意見は真摯に受けとめ反映に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議による提案及び定期的なアンケートを実施し様々な意見交換ができるよう努めている。その中で、職員に役割をもたせることで、意識付けをしている。また、個別の面談も行っており、話しやすい環境づくりに努めている	月2回は、内部研修とケースカンファレンスを実施し、情報共有や意見の収集に努めている。職員はその都度運営に関する要望を伝えている。代表は個人面接のほか、職員の定着に向け、交流の機会を多く持つよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	内部研修を充実させ、外部研修にも参加しやすいよう調整を行っている。また、モチベーションの向上の為、給与水準や勤務体系を整備・調整している		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては、年齢や性別ではなく、想いを共有できる方を対象としている。資格や経験年数ではなく、お互いが支えあえる環境づくりに努め、個々の得意分野を生かした役割につき、自信に繋がるよう支援している	職員の採用にあたり、年齢や性別による排除はされておらず、現在、安定化に向けて取り組んでいるところである。資格取得の支給や外部研修参加に向けたサポート等、個別のスキルアップを支援している。職員は、口腔ケアやキーボード演奏、パソコンを駆使し新聞やDVD作成等、有する資格や趣味・特技を活かせる場面がある。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定期的な会議において、様々な問題を取りあげ、意見交換を行っている。また、高齢者の心理についても研修を行い、心・身体の変化の受け入れを十分に行い対応するよう指導している	市開催の外部研修のほか、研修計画に基づき、年1回は内部研修を実施し、人権教育の啓発に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれの力量や状況を判断しながら、研修会への参加を促がしている。また、全職員に役割をあたえ、主体となって行動してもらい、個々の能力向上つなげるよう支援している		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に加入し、同業者・同世代の交流の場を作り、お互いの情報交換の場としている。また、リーダー研修の受け入れを行っており、お互いの悩みや、情報交換の場としている		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の段階において、何度も本人との面会を行い、お互いの関係づくりに努めている。入居後にはゆっくりと関わる時間を作り、本人の要望や想いを汲み取り、信頼関係を築いている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の段階において、何度も家族と話し合い、家族が安心できる状況になるまで時間を作っている。また、フェイスシートを活用し、家族の想いを書面化していただき一緒に対応を検討していただいている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入の段階において、アセスメントシートを使用し、現状の問題点を明確化している。その中で、本人・家族との話し合いを行いながら、的確な支援が行えるよう努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の日々の声に耳を傾け、常に尊敬の念を持ちながらも、一緒に生活しているという関係を築いている。また、家事作業やレクを一緒に行うことにより、信頼関係を深めている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会や施設行事には声かけさせていただき、常に家族との交流ができるよう支援している。また、外出の支援もしており、家族が不安を感じる時には一緒に行動し、信頼関係を築いている		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの散髪へ家族協力を得ながら支援している。また、馴染みの場所へドライブに行ったり、記憶が途切れないよう支援している。以前の友だちや知人の来訪もあり、関係が途絶えないようやりとりを行っている	家族との交流のほか、以前の教え子の方の来訪や隣人が郵便物を定期的に届けに訪れる等、関係の継続を大切にしている。また、配偶者の葬儀や親族の法事に、職員が同行支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関わりを促がす中で、席の移動や声かけ・対応を行っている。コミュニケーションが難しい方には職員が間にはいり、関わりが保てるよう支援している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係は継続している。という考えの下、退去後も、本人様の面会や、家族の相談や支援に対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で、思いや希望を聞き取り、また、意思表示が困難な方は気持ちを汲み取ったり、生活歴から推測したうえで、全職員でカンファレンスを行い、対応検討おこなっている	日々の会話や表情、仕草等から、思いや意向の把握に努めている。職員一人ひとりが個別の生活歴等を記載し、カンファレンスで発表・共有し、担当制ではあってもチームで「その人らしさ」を支援できるよう努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの生活歴・生活環境をしっかりと把握し、入居後は本人とのコミュニケーションの中で、細かな情報把握に努め、カンファレンス等にて全職員に周知している		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況変化に対応するため、記録や報・連・相により情報共有に努めている。一日の個々の状態やリズムに合わせ都度の対応をおこなっている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者毎に担当者を決め、各担当者が家族・本人との関わりを深め、希望や要望を聞き取り、全職員にて話し合いを行いながら、常に現状にあったプラン作りに努めている。	管理者がアセスメントを行い、担当職員が計画立案や評価を実施している。必要に応じて、医師と情報交換を行い、方向性を検討している。	多方面からの状況や状態から現れるニーズを整理し、アセスメント・計画・ケアの実施・評価が連動するよう、他職種での根拠ある計画・実践を期待したい。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや、介護記録・夜勤日報等の書類を日々の勤務者がしっかりと記載し、情報共有を行っている。また、問題提議は常に行い計画書の見直しに反映させている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態変化に伴い、常に話し合いを行い、対応検討している。また、できる限りの家族の要望にもこたえ、外出支援や受診対応・マッサージの受け入れなど行っている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域活動や学校行事に参加し、地域の一員であることを自覚していただき、本人の意欲向上に努めたり、日々の生活用品と一緒に買いに行き、役割をもってもらうことで、残存能力を維持できるよう支援している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週の定期往診を受けている。その都度体調や心身の変化の報告を行い、対応指示を頂いている。また、変化時には家族に連絡を行い、必要であれば、家族と主治医との直接のやり取りも支援している	入居時にかかりつけ医について確認し、皮膚科など専門医の受診は家族のほか、職員が同行支援する場合もある。複数の協力医療機関との連携を図り、定期的な訪問診療が実施されている。家族との情報共有に努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の変化や状態を連絡ノートを活用し看護師に相談行っている。また、病状変化時には病院の看護師に連絡・相談を行い対応検討を行い、必要時には主治医との調整を行い、入居者の安心に努めている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族を中心として病院関係者と連携を図りながら、経過を確認している。また、主治医に相談しながら、病院・家族との話し合いの元、早期退院にむけての支援を行っている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の時に説明を行い、必要に応じて詳細の内容を記載した書類を渡し説明している。詳細が記載されている書類内容を改めて検討している段階であり、看取り体制の中で、延命治療を望まないとの希望も聞かれており、内容を書面化している	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について事業所としての方針を説明し、同意を得ている。現状を踏まえ、医師との協議を行い、事業所としてどこまでの支援が可能か、指針の見直しに取り組んでいる。状況の変化に応じて、その都度、家族の意向を確認し、方針を共有している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて看護師よりリスクや心配蘇生法の講習を受けている。また、応急処置に関しては、行ったことを書面化し全職員に実践できるよう周知している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜勤者全員にて夜間帯想定避難訓練を行っている。また、消防署立会いの避難訓練も行っており、避難の確認やアドバイスをいただいている。運営推進会議を活用し、地域との連携も図っており、地域の消防団との連携も行っている	消防署立ち合いのもと、夜間を想定した避難訓練を実施し、避難完了までの時間を計測している。混乱することなく、避難できる対応を学習されている。自治会長への声かけや、運営推進会議に消防団の出席を得る等、地域との連携体制作りに取り組んでいるところである。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊敬の念を持ち、自尊心を傷つけないよう対応に心がけている中で、親しみの中にも敬う気持ちを忘れず声かけを行っている。できる限りの本人のペースを尊重し、生活できるよう支援している	認知症ケアや職業倫理・法令順守等を内部での研修計画に位置付けている。生活歴の把握等、個人の理解に努めながら、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で、個々の入居者に寄り添い、本人の希望や想いを聞き取ったり、表情などで汲み取ったりしながら、自己決定できるよう支援している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自らの意思決定を尊重し、タイムスケジュールではなく、状態にあわせ、休息や、入浴・起床や就寝の時間を変更している。食欲が無い時には無理に食べてもらわず補食をもらうなど、臨機応変に対応している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着慣れたものを持ち込んでいただき、自分の意思で選び更衣できよう支援している。また、購入時にはご家族にお願いし、昔からの好みのもを購入していただいている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の意見を聞きながら、メニューを検討し、簡単な調理を手伝っていただきながら、食事作りをしている。また、下膳可能な方は行っていただいている。嚥下不良の方にはとろみなどをつけ提供等対応している	週1回の食材の配達と、入居者の方とともにその都度の買い物に出かける機会がある。野菜の皮むき等、下ごしらえをともに行ったり、個別の状態に応じて形態等への配慮を行っている。昼食を家族とともにする機会を持つなど、イベントとしても取り入れている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事制限や水分制限のあるかたには、職員間でしっかりとやり取りを行い対応している。また、排泄などの状況をみながら、水分摂取の量を調整している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声かけを行っている。処置が必要な方は週1回歯科往診との連携をとり対応している。また、歯科医の講習研修をうけ、適切な口腔ケアを勉強し実施している		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄リズムを把握・その日の水分量の照らし合わせを行い、臨機応変にトイレ誘導を行っている為日中の失敗はほとんどない。又、各担当によりの確かなパット使用を検討してもらい、負担軽減にも取り組んでいる	職員一丸となって「おむつ外し」に取り組み、日中は殆んどの方が布パンツで過ごしている。その過程を通じて、起立・歩行等機能の維持や、おむつ費用の軽減等の成果が現れている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便リズムを把握し、停滞時には、乳製品の提供や、歩行などの活動にて、排便を促がしながら対応している		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間にはこだわらず、必要時に対応を行っている。また、無理強いせず、気持ちが向くよう声かけの工夫を行い対応している。衛生面にも配慮した上で、週の入浴回数は異なることもある	その都度お湯を入れ替えているため、1日3名程度を基本とし、希望や体調等に応じて支援を行っている。入浴を拒否される方にも、地元の温泉の名称や言葉かけを工夫し、無理強いとならないよう支援している。庭に実る夏蜜柑を収穫し、蜜柑風呂を行う等、季節感ある演出も実施されている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者のペースを把握し、本人の状況を確認しながら無理のないよう対応している。状態により起床や就寝の時間を変更したり、夜間の様子により日中の休息対応を行っている。また、夜間帯も安眠できるよう様々な角度から検討対応している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人カンファレンスにおいて服薬情報の確認を行っている。また、変更時には申し送りノートを活用し伝達ミスのないようにしている。薬局からの対応として基本1包化してもらい、誤薬防止に努めている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の生活歴や本人又は家族からの話の中から、趣味や楽しみを見つけ、状況にあわせ検討を行い対応している。また、残存能力を見極め役割分担(調理・洗濯・掃除等)を行い、意味を見い出してもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物・散歩等、入居者の体調にあわせて対応している。また、本人の希望を聞いたり、生活歴から模索し、家族や地域の協力の下、お寺にお参りに行ったり、地域行事・小学校行事に参加したりと幅広く対応している	近隣の農協への買い物やお寺への参拝、初詣やどんど焼き、小学校の学習発表会の見学等、外出の機会を広げている。庭や玄関先には花や木も多く、季節感を感じることができる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で管理することは難しい状態である為、スタッフ同行にて支援を行っている。希望のあらわれる嗜好品等の購入については、預かり金から現金をお渡しし、支払いまでおこなってもらっている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者からの提案等は無い状態である為、知人や家族からの電話をとりついたり、はがきが送られてきた時には返信の提案を行ったり、入居者様に書いていただいた年賀状等を送付したりしている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔ながらの日本家屋を意識しており、施設感のないよう工夫している。また、整理整頓にも心がけ、定期的な清掃を行っている。リビングには大きな窓を設置しており、四季折々の花を眺めたり、愛犬の様子を見たりとくつろげる空間作りに心がけている	玄関には、ボランティアの方による季節感ある飾りつけが施されている。リビングは大きな窓から庭が見える開放的な空間づくりが行われている。木造平屋建ての日本家屋は、各所に工夫や配慮がなされ、開設時の想いが伝わる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	室内数箇所にベンチを設置し、一人の空間が保てるようになっている。また状態をみながら、気の合う入居者様同士が関われるよう環境作りをしている。リビングにはソファも設置しており、気軽に座れるようにしている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族・入居者に、本人の馴染みの物を持ってきていただき、安心できる空間づくりを行っている。見慣れたもの・使い慣れたものを身近に置き、安全に・居心地がよいよう、家族・職員と共に配置検討している	居室は、入居者の希望や状態に応じ、畳やフローリング、敷物等工夫されている。入居者によっては、仏壇や写真など、なじみの関係や物を生活に取り入れた環境づくりに努めている。年末の大掃除は家族とともに行い整理をしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	扉は全て引き戸となっており、力の弱くなった方でも楽に開閉できるようにしている。また、手すりの配置や、段差をなくし、リスクとなるものがないよう配慮し、歩行しやすい環境となっている		